

決算説明会 質疑応答
(2023年12月期 第1四半期)

[登壇者]

取締役 常務執行役員 財務経理部長

渡部 敏朗 (以下、渡部)

質問者① [Q]: 質問の1点目は、今回のご実績のご評価について教えていただければと思います。会社計画対比に対して、セグメントごとの進捗率としてはどのようにご覧になっているのでしょうか。恐らく、エネルギープラントのところでは、引き続き採算悪化の影響が出ていますので、その辺りが足かせになっていると思います。その影響なかりせば、もう少し進捗が強かったようにお見受けしますが、各セグメントでどのような評価、進捗率とお考えでしょうか。

渡部 [A]: ご質問ありがとうございます。ただいまのご質問について、セグメントごとにこの1クォーターの会社計画との状況をご説明いたします。

まず、メカトロニクスセグメントにつきましては、受注、売上については若干、減少しておりますけれども、ほぼ予算どおりの推移となっております。営業利益につきましてもほぼ予算、計画どおりの進捗となっております。

一方、インダストリアル マシナリーのセグメントにつきましてはかなり変動がありまして、受注につきましては、会社の計画に対して1割強と、やや未達傾向で推移していると。こちらはプラスチック機械、それから半導体関連の機種を持っております精密の事業のビハインドが大きく出ております。

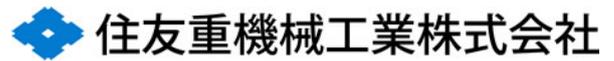
一方、売上高につきましても、受注ほどではありませんが、やや会社計画に対しては下振れということで、基本は受注残をこなすという状況にあります。一部の機種においては部品の調達問題もありまして、出荷が少し遅れているといった状況です。

ただ、営業損益につきましては、こちらのセグメントはほぼ計画に近い形で推移しています。こちらは固定費等の発生の遅れ等もあるとは思いますが、機種構成の差等によって何とか予算内にはまっております。

それから、ロジスティクス&コンストラクションにつきましては、受注につきましては、油圧ショベルにおいて予算計画に対して上振れがあったと。こちら、中国等は低迷しているのですが、国内での受注増が見られます。

一方、売上高につきましては、ややこのセグメント全体でも、計画に対してマイナスという形となっております。主たる要因は、油圧ショベルを中心として、部品の調達でのサプライチェーンの要因ということ

2023年5月12日（金）



で、やや出荷が遅れがちになっているということです。

一方、営業損益につきましては、売上減の中ではありますが、固定費の発生のずれ等もありまして、ほぼ計画どおり推移しております。

最後に、エネルギー&ライフラインのセグメントにつきましては、受注はかなり一品系中心ということで、プラス、マイナスありますが、結果的には、セグメントとしてはほぼ計画に近いラインで進んでいます。ただ、一方、売上高につきましてはややビハインドということで、工事の進捗の差等で売上が計画に対して少し不足しております。

一方、営業損益につきましては、先ほどご指摘もありましたとおり、今回、1クォーターで海外のプロジェクトでの追加のコスト引当等もあり、その他、船舶での鋼材費アップの折り込み等の要因もありまして、全体としては、計画に対して大幅な未達で終わっている状況にあります。

以上が概要となりますが、よろしいでしょうか。

質問者① [Q]：詳細にご説明いただきまして、ありがとうございます。

2点目の質問ですけれども、昨今、PBR1倍割れの銘柄に対して、何かアクションや、是正という取り組みが要請されるような流れになっているかと思えます。その社会的な流れに対して御社はどのようにお考えなのか、例えば、配当であったりとか、御社のマネジメントの姿勢の変化に対して期待しているものかどうか、その辺りについて、お答えできる範囲でコメントいただけますでしょうか。

渡部 [A]：PBR1倍割れの問題につきましては、昨今、東証からの方針への対応もありますが、もともと当社の状況が1倍割れ継続ということにつきましては、従前から取締役会の中でも議論になっておりまして、そういう意味で、東証からの話があるからということではなくて、これに対するいろんな検討等については行っております。

ただ、基本的には、資本政策といった側面もかなり重要とは思っておりますけれども、当社の事業の成長戦略がしっかりとお示しし切れない限り、根本的な問題解決にはならないだろうという認識もありまして、現時点では、今年が今現在の中期経営計画の最終年ということで、来年からスタートします、次の中期経営計画に向けていろいろ戦略、それから方針を検討しております。

その中で、改めてその成長についての考え方、それから資本政策等については取りまとめていこうということで、現在もそれに向けて議論は進んでいるところです。会社の方針を、どういう形でどのタイミングでお示ししていくかにつきましても、引き続き次の中計開始までの間に、何かお示しすることができるのかどうかも含めて、検討していきたいとは考えております。

質問者② [Q]：私から伺いたいのは、欧州の個別プロジェクトの採算悪化のところでございまして、こちらの採算悪化の内容といたしますか、今後も引き続き影響があるものなのか、こういったキャラクターのものなのかを、まず教えていただけますでしょうか。

渡部 [A]：ご質問ありがとうございます。欧州でのエネルギープラントのプロジェクトの採算悪化につきましては、22年度末に、特定の複数のプロジェクトでのコスト悪化の見積もりを立てて引き当てをしたわけですが、今回、実は前回、引き当てをしたプロジェクトにおいて、さらにコスト超過が見込まれることが分かっている状況になっております。

状況を言いますと、今回、引き当てたプロジェクトの中に、設計がようやく終わって、これからプロジェクトでのいろいろなものの手配、発注等が進んでいくといったことがあるのですが、そういったプロジェクトにおいて、当初、昨年末に想定していたよりも、さらに調達価格がアップすると。

一つの要因は、欧州でのエネルギー価格ですとか、労務費等ですとか、そういったものが当初想定よりも上がりそうだということが分かったものがありまして、そういったものを引き当てております。

その他では、工事の完工に近かったものについて若干、工程が遅れているものなどもありまして、その辺りの工期延長の部分を見ているわけです。今回、前年度末に引き当てた水準からいいますと、かなり追加引当はしておりますけれども、引当額自体は減少しております、今後もまだ進捗が残っているプロジェクトにつきましては、注意を要するとは考えておりますが、かなりコストの見極めについては収束しつつあるという評価はしております。

以上のような答えでよろしいでしょうか。

質問者② [Q]：ありがとうございます。もう一点、伺えればと思うのですが、半導体関連のところ、需要の市況の軟化が見られたというお話だったかと思えます。こちらの足元の軟化具合といたしますか、御社が見ているところとの差異ですとか、回復のタイミングですとか、1Qが終わってみてのお考えがもし何かございましたら、教えていただけますでしょうか。

渡部 [A]：半導体関連の機種は当初、計画したときよりもやや厳しいという認識をしております。実際、1クォーター自体の数字を見ますと、まだそれほど、減少は減少ですが、大幅な未達には触れていません。幾つか機種を申し上げますと、一つ、イオン注入装置につきましては何とか、まだ未達ではありますが、一定の範囲内で推移している状況にあります。

ただ、今後、2クォーター以降、それから下期から緩やかに回復する可能性もあるという想定もありましたけれども、その辺りはお客様の投資方針等の変更がまだ定まらないということで、年度を通して見ると、かなり厳しい状況もあるかとは思っています。

その他、クライオポンプ等冷却関係のコンポーネントにつきましては、前年度まで先行発注的なものがあつたということで、この機種については足元からかなり大幅な受注の減少が起きております。

こちらも、ある段階で半導体製造装置業界が反転していけば、いずれまた戻っていくものとは思っていますが、こういったタイミングで反転するかは予断を許さないかと思っております。

質問者③ [Q]: メカトロニクス事業について伺いたいです。減速機ですかね、特に聞きたいのは。いわゆるロボット向けですとか、建設機械向けとか、皆さん、されているかは記憶が曖昧なのですが、そういった主要な市場の現状について。

例えば、ロボットだったら、EV 向け関連の投資が増えていて、それによって皆さんの減速機がどれだけ今、需要が伸びているとか、建機だったら中国市場の状況の影響とか、減速機から見たその辺りの状況を伺いたいと思いました。お願いします。

渡部 [A]: ありがとうございます。変減速機の機種につきましては、足元はやや停滞傾向もあるのですが、基本、主力の中小型の減速機につきましては、堅調に推移しているかと。若干、足元が弱含みなところもありますが、そういった状況にいます。

一方、精密減速機、ロボット向け等の減速機につきましては、まだかなり需要が落ち込んだ状況にありまして、こちらはまだ調整局面が続いている状況となっております。

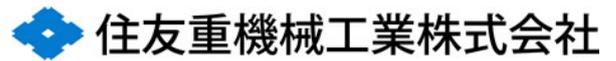
国内の需要につきましては、今後、緩やかに回復基調かという気はしますが、逆に、欧米、海外については若干、景気の変調等の懸念もありまして、北米等で今後、そういった中小型の減速機についての軟化といったものも懸念されるかというところにはなっております。

また、今ご質問にあつた建設機械関係等につきましては、あまりそういったところのポジションは特定の機種向けのものはないと思うのですが、自動車関連については、自動車関連全体の立ち上がりはやや遅れていると。

ただ、EV 関係については、その中でも比較的、投資もあるということで、需要は堅調に推移しているといった状況だと思っております。以上でよろしいでしょうか。

質問者③ [Q]: 一応、EV 関連、確認ですが、EV の需要があるというのは、皆さんの減速機を搭載しているロボットが EV の組み立てとか、そういったものに使われているから、EV の需要があることでそのロボットの需要が出てくるという意味ですか。それとも、別に EV 関連で直接、減速機が使われているのですか。その辺りが知りたいと思ったのですが。

2023年5月12日（金）



渡部 [A] : EV 関連ですと結構、幅広いとは思いますが。例えば、電池関連の製造に関わる部分のラインへの投資といったものもありますし、また、EV になると、従来の自動車とのラインの大きさというか、荷重の変更によってラインの変更もするといった、ライン変更に伴う変減速機の需要もあると聞いています。

直接、EV 組み立ての専用のロボット向け等といったものでの変化は、全体のロボット市場の動向の中に入れて、われわれは今、見ているところではあります。

以上